

結果分析の詳細（中学校）

（1）各教科に関する調査（○、●は県の平均正答率と比較し顕著な項目）

① <国語の結果分析>

- 聴き取ったことを基に、目的に沿って自分の考えをまとめることができるかどうかをみる問題
【話すこと・聞くこと】
- 文章の中心的な部分と付加的な部分について叙述を基に捉え、要旨を把握することができるかどうかをみる問題【読むこと】
- 文章を読んで理解したことなどを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができるかどうかをみる問題【読むこと】
- 歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読むことができるかどうかをみる問題
【我が国の言語文化に関する事項】
- 事象や行為、心情を表す語句について理解しているかどうかをみる問題
【言葉の特徴や使い方に関する事項】
- 意見と根拠など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる問題
【情報の扱い方に関する事項】

〔改善に向けた取組み〕について

文章を読んで要旨を把握したり、自分の考えを広げ・深めたりすることについて、一定の定着がみられました。その一方で、歴史的仮名遣いの理解と、事象や行為、心情を表す語句についての理解に課題がありました。読書指導から、より多くの語句理解につなげるとともに、自分の考えをわかりやすく伝えることができるように表現力の向上に努めます。また、古典の楽しみへとつなげるため、現代語訳などを教材として適切に活用し、原文と比較したり関係付けたりすることで、その作品の世界に興味・関心が向かうよう指導の充実を図ります。

② <数学の結果分析>

- 累積度数の意味を理解しているかどうかをみる問題【データの活用】
- 反比例の意味を理解しているかどうかをみる問題【関数】
- 事象を理想化・単純化することで表された直線のグラフを、事象に即して解釈することができるかどうかをみる問題【関数】
- 四分位範囲の意味を理解しているかどうかをみる問題【データの活用】
- 結論が成り立つための前提を、問題解決の過程や結果を振り返って考え、成り立つ事柄を見いだし説明することができるかどうかをみる問題【数と式】
- 複数の集団のデータの分布の傾向を比較して捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる問題【データの活用】

〔改善に向けた取組み〕について

基礎的な知識について一定の定着がみられる一方で、内容や領域によっては課題もみられたため、単独の知識として身に付けていくのではなく、単元や領域の系統性を踏まえ、既習内容のつながりをもった定着が図れるよう指導の充実に努めます。また、問題解決の過程や結果を振り返って考える活動をとおして、状況を把握しながら問題を解く力の向上を図るとともに、【データの活用】領域においては、複数のグラフやデータ分布からその傾向を読み取ることをとおして、自らの考えを表現・説明できる力の育成に努めます。

③ <英語の結果分析>

- 未来表現 (be going to) を理解するとともに、その知識をやり取りの場面において活用できる技能を身に付けているかどうかをみる問題【話すこと [やり取り]】
- 日常的な話題に関して聞いたことについて、考えとその理由を述べ合うことができるかどうかをみる問題【話すこと [やり取り]】
- 情報を正確に聞き取ることができるかどうかをみる問題【聞くこと】
- 日常的な話題について、目的に応じて英語を聞き、必要な情報を聞き取ることができるかどうかをみる問題【聞くこと】
- 日常的な話題について、事実や自分の考えなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができるかどうかをみる問題【書くこと】

〔改善に向けた取組み〕について

【話すこと [やり取り]】の領域における成果がみられる一方で、【聞くこと】の領域では一定以上の情報を正確に聞き取ることに課題がありました。目的に応じて英語を聞く活動のなかで、思考力を働かせながら聞き取る姿勢の定着を図ります。また、【書くこと】の領域では、自分の考えや気持ちを英語で書く言語活動を継続的・計画的に取り入れていくことで、基本的な語句や文法事項等の理解につなげるとともに、日常的な話題についても、事実や自分の考えを整理してまとまりのある文章を書く力の育成に努めます。

(2) 生徒質問紙による調査 (○、●は肯定的回答の割合の顕著な項目)

- 「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」
- 「毎日、同じくらいの時刻に起きている」
- 「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる」
- 「自分には、よいところがあると思う」
- 「人が困っているときは、進んで助けている」
- 「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいあるか」

「毎日一定の就寝時刻と起床時刻」の項目では、肯定的回答の割合が県平均より高い傾向にあることから、安定した生活リズムのなかで生活を送っていることが伺える一方で、就寝時刻が遅い生徒は、日常的に睡眠時間が短くなるため、健康状態に気をつけると同時に体調管理の注意啓発に努めていきます。また、「総合的な学習の時間における学習活動への取り組み」の項目においても、肯定的回答の割合が高いことから、課題設定から課題解決へと主体的な学びが定着しているとともに、発表などの活動をとおして、協働的な学びにもつなげられているため、引き続き【主体的・対話的で深い学び】の視点に立った授業改善に努めていきます。

一方で、自己肯定感・自己有用感に係る質問項目において、肯定的回答の割合が低い傾向にあり、また日常の幸福感に係る項目でも、県平均と比較して低い傾向にありました。さまざまな体験や活動のなかで、個々のよさを互いに発見するとともに、そのよさを伝え合うことで、それぞれの自己肯定感や自己有用感の育成に努めていきます。